□ふれあいとうるおいのあるまち
地域情報紙　Vol.28 No.109　新春号

はばたき20

□発行　地域力推進羽田地区委員会　□編集　はばたき20編集委員会

夢と希望と…未来に向けて 共に学ぼう都南の子

都南小学校は、昭和14年9月1日、東京府東京市都南尋常小学校として開校し、この日から80年の歳月を重ねてきました。開校当時、保護者や地域の方々が子供たちの通う学校のためならと、多摩川の土手から砂を運び入れ、校庭を整地してくださり、学校が建てられました。

その後、順調に歩み始めた都南小学校でしたが、昭和20年4月15日、太平洋戦争中の空襲で、木造だった校舎は、わずか30分で焼けてしまいました。唯一残ったものは、今も校庭にある二宮金次郎の像だけでした。戦争が終わっても校舎がなく、勉強する場所にと焼け残った倉庫を用意してくれたのも、保護者や地域の方々でした。

地球聖歌～笑顔のために～を合唱しました

近年になり、子供たちの身近で起きる様々な事件を心配し、保護者や地域の皆様は、登下校、校外での子供たちの安全を第一にと考え、見守りをしてくださっています。

このように開校当時より、現在まで受け継がれている保護者や地域の皆様のあたたかい思いに支えられ、都南小の子供たちは、やさしく素直に育っています。

開校80周年には、地域の皆様に感謝の気持ちを込めて、子供たちの良さを生かした手づくりのあたたかい記念行事にしようと、10月19日に向け、準備を進めてまいりました。当日は、大田区教育委員会　教育長　小黒仁史様をはじめ、150名のご来賓にご臨席いただき、盛大に、そして厳粛な式典を行うことができました。

ご臨席いただきました多くのご来賓の皆様に心より感謝申し上げます。子供たちは、お祝いの気持ちを込め、思い出に残る式典にしようと、立派な態度で式に臨みました。「喜びの言葉」では、四年生が「都南小学校の行事」、五年生が「都南小学校の良いところ」、六年生が「都南小学校と地域の歴史」について気持ちを込めて伝えました。最後には一年生から三年生も式場に入り、「地球星歌　～笑顔のために～」を全員で合唱しました。子供たちが一生懸命に歌う姿に、会場の中は大きな拍手が沸きました。その後、「となんハッピータイム」として、各学級において、子供たちが工夫を凝らし、ご来賓の皆様に「おもてなしの会」を行いました。おもてなしの気持ちを込め「歌」「音読」「歴史人物カルタ」「クイズ」「ボッチャ」などで、皆様と共に過ごしました。また、対話を楽しみ、笑顔が溢れていました。子供たちにとってご来賓の皆様との交流は、学びのある、思い出に残る会となりました。

今後とも、都南小学校の子供たちが未来に向け、さらに成長できるよう地域の皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

（都南小学校　校長　飯島　典子）

おもてなし会の様子

羽田神社夏期例大祭の歴史
～羽田になぜ鳳輦があるのか～

令和元年鎮守の祭りは、お神輿と待望の鳳輦（ほうれん）巡行となった。平成23年、羽田神社宮守会が巡行計画をたてたが、東日本大震災が発生、お神輿のみで鳳輦渡御は断念した。

歳月の経過と共に、鳳輦外観の痛みがひどくなり渡御の為、このたび大修理をした。

元年のお祭りは奉祝御即位記念鳳輦渡御と記した揃いの半纏着用で参列した。改修された鳳輦は町の角々で拝む人々に光り輝き、美しく雅な姿だった。観衆から「なぜ漁師町に鳳輦があるの？」という質問が挙がり、私は「昭和30年代日本は高度経済成長期に入ったが、それから外れたり、戦時の抑制、戦後の解放感からお酒が手伝い、神輿で繰り返し乱暴が続いた。その結果町民から「暴れ神輿はいらない」と祭りから神輿が消えた。その代わりとして鳳輦を造った。最初は地元の大工さんが作り、西町町会の囃子屋台に乗せ、子どもたちが引っ張り巡行した。」と話し、雅な鳳輦のあることを「ガッテン」してもらった。

さて現在の鳳輦は昭和39年東京オリンピック開催の年に有志によって宮大工に発注し新調。勿論牛が引く見事な鳳輦である。鳳輦の祭りは当分続いた。その間、若い人たちは他地区の神輿祭りに参加し、神輿の復活を願い、規則を作り、酒を廃し、スポーツ精神を共有したグループによって扱われるようになった。再び羽田神社の祭りに町会神輿が巡行ができるようになった。その立役者が青年連合会である。従来神輿巡行は宮守会主導の宮神輿に従って町神輿が続き、羽田全町を巡行していた。青年連合会は、この形態とは別に神輿パレードと称して空港内、弁天橋を起点に産業道路までを通行止めにし、神輿によるパレード祭りを定着させた。現在城南地区唯一と云われる祭りになるまでの努力は唯々感謝の一言に尽きる。

2020東京オリンピック・パラリンピックに合わせて新しくなった鳳輦

鳳輦は新調から50年経過し、30年ぶりの渡御である。色褪せた姿のままでは巡行できない、２０２０年東京オリンピック・パラリンピックに合わせた改修・新しくなった鳳輦は、一年早く町に甦った。

羽田神社の祭りの形態は、早朝神輿を（今年は鳳輦が加わる）宮出し羽田全町（空港を含む）を巡行する神事である。

午後は羽田青年連合会主導で弁天橋ヨコタ通りを通行止めにし、神輿パレードが行われる。14基の町神輿が参加し、激しく揉まれる様は小舟が右に左に大きく傾くような担ぎ方である。空港内をスタートし高速下では神輿のマグマが爆発、ヨコタの連続は観衆を巻き込み、祭りは最高潮に達する。終演、出張所前通りは興奮冷めやらぬ担ぎ手の達成感に満ちた笑顔が美しく、整然と置かれた神輿は町の美術館といえよう。

羽田の祭りは神社神輿の渡御に始まり、町神輿パレードの二極で更に鳳輦が加わり、国際空港を抱える地域力向上の源泉は鎮守のお祭りであると言っても過言ではあるまい。

（羽田神社賛助講　講元　石井五六）

※今号発行に際しては、公益財団法人伊東奨学会の寄付金が活用されています。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

☆編集後記☆

令和2年目がスタートしました。

今年は64年に続き、二度目の「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。国籍に関係なくこの日の為に頑張ってきた選手の皆さんを応援していきたいと思います。今からワクワク、ドキドキです。

そして年4回発行の「はばたき20」も各編集委員がバトンを繋いで28年目に入ります。羽田地区の歴史が詰まっています。これからも読者の皆様がワクワク、ドキドキと期待してくださるような紙面作りを目指してまいりますので、皆様方のご意見、ご要望とご支援よろしくお願いします。

はばたき20編集委員
藪谷　秀子